

子ども自ら「学び方」を選べる社会の実現に向けて

Happy Educaiton ~子どもが自ら学び方を選べる社会へ~

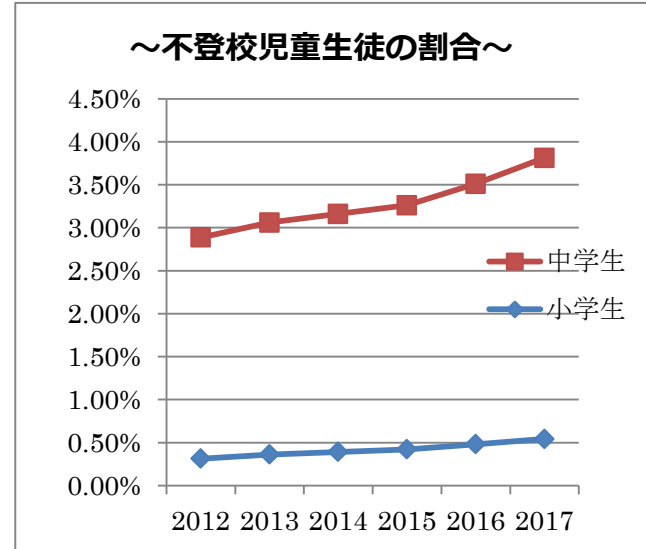
1. 義務教育下における不登校の現状

- ★日本では、保護者は子どもに教育を受けさせる**義務**がある ⇒ 子どもが教育を受ける**権利**がある
- ★義務教育=学校教育という社会通念があるため「**不登校**」が**問題視**されている現状がある

【不登校の定義】何らかの心理的、情緒的要因、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはたとくともできない状況にあるため年間連続30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの

全国…小学生は200人に1人、中学生は30人に1人が不登校
 山口県…**1260人**の不登校小中学生がいる(2016年)

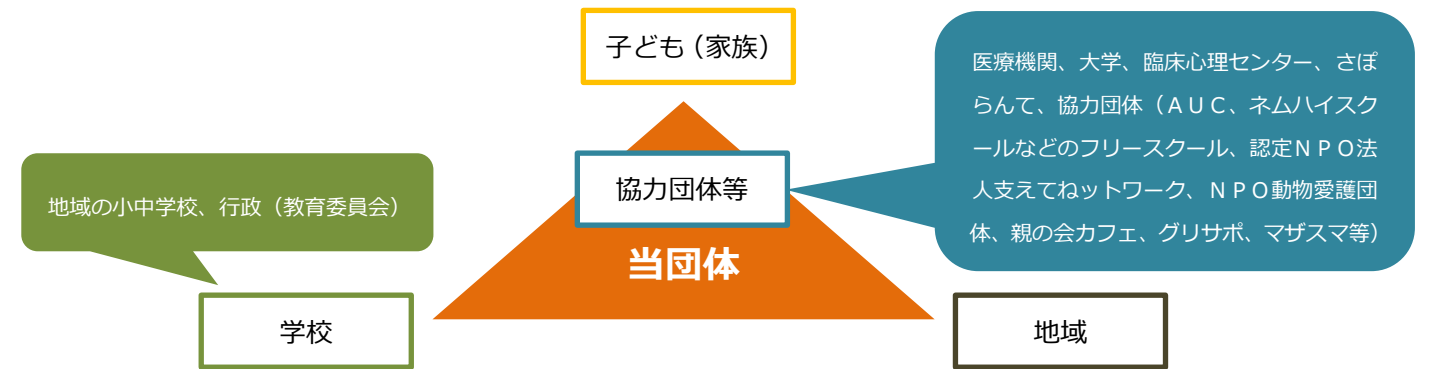
- ★不登校が増えている理由
 不登校になる要因は「**何となく**」
 発達障害や感覚の過敏さなどが少なからず影響
- ★不登校児童生徒の学校復帰率…28.6%(2011年北海道)
 →あとの約7割の子どもたちは**学校に戻れない**
- ★2017年2月より教育機会確保法が制定
 学校に行けない場合は**休んでも良い**
 学校以外の居場所で**学ぶことが認められる**ように
 でも、小中学生が行ける山口県内民間フリースクールは**4校のみ**
 →学校に行けない子どもの**居場所がない**
 →各市町にある教育支援センターは学校に戻すための施設



2. 不登校への対応で変化する社会



3. Happy Educationは「つなぐ」役割



4. Happy Educationの目指すところ

目標 **「子どもが学び方を自分で選べる社会の実現」**

そのために行政や地域、協力団体と連携し「**学校へ行かないという選択が認められる社会の構築**」を行う

5. こんな人たちを対象にしています

ペルソナ①：不登校当事者

太田翼(おおたつばさ) 13歳(中学1年生)男性、山口市白石地区在住
 両親(父50歳・高校教師、母40歳・専業主婦)、妹(小4)と同居

ペルソナ②：不登校当事者の家族

太田麻里子(おおたまりこ) 40歳 女性、山口市白石地区在住



6. 今後のスケジュール

事業分類	事業名	2018	2019	2020	2021	2022
居場所支援事業	茶話会	●				
	居場所支援	●				
	個別相談	●				
啓発事業	学校連携支援	●				
	学び選択支援	●				
	行政提言	●				
人材育成	展示	●				
	地域啓発活動		●			
	当事者		●			
法人化	学生		●			
	一般社団法人			●		
	公益社団法人				●	
拠点事業	拠点			●		
	フリースクール				●	
	塾事業					●
	学童事業					●